

リンゴ「ふじ」出来競う



リンゴの色や糖度などを審査した品評会＝高山市冬頭町、JAひだ飛騨地域農業管理センター

飛騨特産のリンゴ「ふじ」の第24回品評会が8日、高山市冬頭町のJAひだ飛騨地域農業管理センターで開かれ、農家が丹精込めて育てたリンゴの出来栄を競った。

(安井真由子)

JAひだ、味や色の品評会

水口さん(高山市味邦園) 最高賞

技術やブランド力向上のため、果実生産農家でつくる同JA果実出荷組合協議会が毎年開いている。今年4月に霜が降りたことや夏の長雨などが影響し、リンゴの出荷量は同JA全体で2割ほど減少。品評会への出品も、過去最少の23点となった。

入賞したリンゴは、11日から同市岡本町のバロー高山店で販売される。その他の入賞者は次の皆さん。

▽金賞2席・県中山間農業研究所長賞 味邦園・水口康太郎(高山市久々野町小坊)▽銀賞1席・JA全農県本部長賞 同・水口久美子(同)▽同2席・飛騨農業協同組合長賞 加藤和俊(同町無数河)▽同3席・飛騨農業振興会長賞 中野雅夫(同)▽銅賞1席・岐阜中央青果社長賞 三輪利美(同)▽同2席・高山市場協会長賞 亀山忠志(同)▽同3席・JAひだ果実出荷組合協議会長賞 青木寛征(同)